

3月は卒業シーズン。しかし、この時期を不安げに迎えている親子もいるのでは？ 学校に行きたくても行けない！ そんな仙台での子どもの不登校の現状とサポートする活動を紹介します。

学校に行けない！ 仙台の不登校事情

NPO法人みやぎユースセンター 理事長 土佐 昭一郎

●不登校の現状

「小中不登校五年ぶり増」という平成十九年八月〇日付河北新報の記事を記憶している方も多かったように、いじめ問題などで文部科学省の統計の仕方が変わったのも統計上の増加の一因だと考えられるが、実際身近に不登校生の相談を受けている側としては、数的に引きつり、六年前からほとんど変化していないというのが実態だ。

不登校の調査については、「何らかの心理的・情緒的・身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間三〇日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの」を文部科学省として発表している。本県では平成十七年度発表では小学生四二二名、中学生二八三名、発生率は小中学生合計で一・六%となり、発生率は若干ながら全国平均(小中学生合計一・二%)を上回っている。

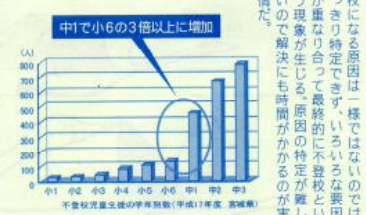
不登校になる学年年代は、今まで統計から中学生に多く発生する。特に小学校六年生から中学校一年生で不登校になる数は三倍も上るという。その後二年、三年と学年が進むにつれて不登校になる生徒が増える傾向にある。

中学校一年生になって不登校になる原因は、科目毎の先生、定期テスト実施、通学距離、クラブ活動、学校行事への参加などの様々な教育環境の変化にあると考えられる。だが不登校

●不登校の支援

不登校になった児童生徒の相談は、学校をはじめとして教育委員会子どもセンター、県市町村の相談センターなどで行っており、不登校になってからもその過半数以上は学校に復帰しているようだ。

しかし、そうは行ってもなかなか復帰できない状況の児童生徒もおり、そのようでは「児童の杜」の杜のひろば(その他の地域では「けやき教室」)で指導を受けられるようになっている。が、すべての児童生徒が通っているわけではない。不登校の数〇パーセントしか利用していないのが実態のようだ。



●不登校対応の在り方

県内でも不登校を支援する動きは十数年前からあり、フリースクールやフリースペースとして、NPO法人や財団などの団体、あるいは個人で活動している。そのような団体または個人は、県内に約二〇カ所程度。小学校から高校までの児童生徒の不登校支援とおおむね二〇代までの引きこもり傾向のある方の支援を行っている。ただし、このよう民間支援機関の不登校の利用は、必ずしも多くないようだ。

県内でも不登校が増加傾向を示したことに重大な問題意識を持っている。その対応策として、県では、小学生には、早寝早起き、朝ごはん運動の展開、中学生には「中一不登校の未然防止の在り方」として、中・高校の強化を進めている。「早寝早起き、朝ごはん」運動は、宮城県が卒業で、現在では文部科学省も国民運動として全国に広めている。

一方、仙台市では、いわゆるフリースクールやフリースペースといわれる児童生徒を支援している民間団体または個人との情報交換の場を、一昨年(平成十九年度)に民間の情報収集し、不登校の支援を共通認識のもとで行うという姿勢を見せている。

県内にあるフリースクール、フリースペースでも不登校支援に今までの以上に積極的な関わりを進めている。だがその支援方法や考え方は様々で、一概にフリースクール、フリースペースといってもかなりの違いがある。

特集 ●学校に行けない！ ― 仙台の不登校事情

●不登校支援の問題点

不登校に関する相談を受けていると、「不登校にも理由や進路など、不安ばかりが募り、ここに相談に行けば良いかわからない」と不登校になった時の子どもへの対応を知りたい。さらにはフリースクールについて何かわからない、学校の先生にどこまで相談が良いのかかわからない、という内容が多い。結局は心として良いかわからないという状況だ。

これは県、市などの行政、民間支援団体あるいは教育委員会を含めた学校側の把握不足が一番の原因だろう。これからの時代を担う大切な子どもたちへの支援に、行政・民間・学校といったセクショナリズムは不要である。保護者を含め多くの大人達がそれぞれで培った知恵を出し合うことが、ここぞが大切なのでないだろうか。

例えば、学校復帰に力を入れていく団体、保護者などの不安解消や家族支援に力を入れていく団体、進路や進学など学習を中心として本人支援に力を入れていく団体、さらには不登校の中には発達障害の生徒も含まれているので、レバニギスベル、自閉症、ADHDといった児童生徒の支援に力を入れていく団体、居場所といった自由なスペースを提供している団体などである。いずれにしても学校や行政と同じように不登校の学校復帰や社会参加に不安を抱える本人と保護者を支援したいという思いは強い。

フリースクール 紹介

民間 学習支援型

- NPO法人みやぎユースセンター
小・中学生の不登校生の学習支援を通じて、学校への復帰や公立高校への進学などの実績がある。高校中退者の高等学校試験合格者や合格後の進学・就職などの進路指導をきめ細かく行っている。
〒980-0014
仙台市青葉区本町2丁目8-15
仙台市市民活動サポートセンター内27
TEL&FAX: 022-256-7977
e-mail: miyagiyouth@npo-jp.net
U R L: <http://www.miyagiyouth.npo.jp/>
- フリースクールたいと
○小・中学校における不登校・学習向上への対応
○在籍学校との連携を図り、復学支援強化
○保護者支援強化
第4土曜は保護者の会
〒982-0003 仙台市太白区郡山8-4-6
TEL: 022-249-4023
FAX: 022-243-5486
e-mail: dato_gakuen@plala.or.jp
U R L: http://www.13.plala.or.jp/dato_gakuen/

- NPO法人みやぎ動物介在福祉会 With Learning「人と動物のふれあい」を活動したプログラムを取り入れ、子ども達や障害を持っている方々にそのプログラムを提供している。学校と連携をとりながら子ども達を学校復帰へと導いている。
〒983-0822
仙台市宮城野区蒸気東1-2-37
TEL&FAX: 022-797-7650
e-mail: with@hot.dog.co.jp
U R L: <http://2st.jp/with/>
- 発達障害学習支援
●仙台YMCAコミュニティスクール
発達支援が必要な子どもたちが地域の中で生き生きと個性を發揮し、生きる力を育てる場。LD・ADHD等に起因する不登校の子どもたちが主に利用。
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
TEL: 022-222-7645
FAX: 022-222-4651
e-mail: community@sendaiymca.or.jp
U R L: <http://www.sendaiymca.or.jp/community/index.html>
- 家族支援、子どもの居場所
- フリースクール 西の平
不登校、中退をした子供たちの居場所を伴うとともに、子供、家族に対する支援を行う。社会に対して不登校、中退をした子供たちに対する理解を深めてもらえるように、情報発信をする。来ている子どもの状況に合わせたカリキュラムを組み、柔軟に対応する。
〒982-0825
仙台市太白区西の平1-13-21
TEL&FAX: 022-243-8688
e-mail: kanotomo@hotmail.com
U R L: <http://www.free-school-rishinet>

- フリースクール 煌
子どもの居場所・出会いの場・学びの場の提供。
子ども達の希望に応じて1人1人の個性やペースに合わせた学習をサポート。不登校・引きこもりの親の会を毎月1回開催。
〒983-0037
仙台市宮城野区平成2丁目17-28 2F
TEL&FAX: 022-238-5302
(11:00～16:00)
e-mail: kagayaki@fdou2.dion.ne.jp
U R L: <http://www.h4.dion.ne.jp/~kagayaki/>
- 仙台市通所指導センター「児童の杜」
仙台市教育委員会が所管する仙台市内の不登校の児童生徒のための公的機関。様々な理由で不登校となった児童・生徒に対し、学校復帰への支援を行なう通所施設。引きこもり傾向のある子どもたちへの「訪問対応」や相談員と子どもが1対1で活動する「個別対応」を行っている。
〒981-3131
仙台市東区七北田字東裏28-1
TEL: 022-773-4150
FAX: 022-218-8081
e-mail: jyuu@sendai-c.ed.jp
U R L: <http://www.sendai-c.ed.jp/~jyunonon/>
- 通所指導教室「杜のひろば」
(仙台市の宮城野・八幡・泉・太白・青葉・若林に設置)
不登校の児童生徒が小集団を形成して活動する「小集団対応」を行なっている。

NPO 法人杜の伝言ゆるる発行
平成 20 年 3 月号